

## 世界遺産条約: 主な出来事

**1972** 「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」が採択される。このユニークな国際条約により、「自然の保全」と「文化財の保存」という2つの概念が初めてひとつの文脈で捉えられるようになる。条約では、人間が自然と相互に作用し合う方法に対する認識が深められ、「自然の保全」と「文化財の保存」は両立されるべきであるとの抜本的な考えが示された。

**1978** 世界遺産委員会において世界遺産登録基準が定められ、「世界遺産条約履行のための作業指針」が作成される。これにより、世界遺産のモニタリングと報告のための原則など、基本的な原則が打ち出された。初の世界遺産として12の遺跡が登録され、エクアドル共和国の「ガラバゴス諸島」が世界遺産第一号となった。

**1994** 世界遺産にみられる地域間のはらつきや、記念物の種類、時代の偏りを解消するため、世界遺産委員会が「世界遺産一覧表における不均衡の是正及び代表性、信用性の確保のためのグローバル戦略」を採用する。同戦略は、遺産を記念物として捉える見方から、より人間に即した、多機能でグローバルなものとする見方への進展を物語る。文化的背景ごとに固有の遺産価値が存在することを指摘した「真正性に関する奈良文書」が採択された。

**2007** 5つ目の「C」として、世界遺産委員会の戦略目標に「コミュニティの活用 (Community)」が加えられ、世界遺産の保存活動で地域社会が果たす重要な役割が強調される。

**1975** 20カ国の締約により世界遺産条約が発効する。特に国際的な場で検討を必要とし、優先的に支援されるべき物件に注意を向けるため、「危険にさらされている世界遺産リスト」が作成される。締約国による世界遺産の特定、保護、推進を支援するため、分担金及び任意拠出金により世界遺産基金が設立される。

**1992** 世界遺産条約の採択から20年の時を経て世界遺産の数が377件に達したことを受け、条約の運用のために世界遺産センターが設立される。遺跡分類に新たな項目が加えられ、世界遺産条約は、文化的景観を認めて、これを保護する初の法的文書となった。

**2002** 世界遺産条約の採択30周年にあたるこの年、世界遺産委員会は「世界遺産に関するプラベスタ宣言」を採用し、4つの主要な戦略目標（「4つのC」として知られる「信用性の確保 (Credibility)」、「保存活動 (Conservation)」、「能力の構築 (Capacity-building)」、「意思の疎通 (Communication)」)を通して世界遺産の保存を支援するよう、すべての関係者に呼びかけた。官民連携を促し、幅広い層の機関や個人が世界各地にある世界遺産の保存に貢献できるようにする枠組みのため、「世界遺産パートナー・イニシアティブ (PACT)」が立ち上げられた。

**2012** 世界遺産条約の採択40周年。世界遺産の数は936件にのぼる。「世界遺産と持続可能な開発: 地域社会の役割」をテーマに、年間を通じてイベント、会議、ワークショップ、展示会、対象を絞ったコミュニケーション活動等、数々の記念行事が開催される。

Design: Recto Verso 33 (01) 46 24 10 09 • Cover photos: Reef Fort Complex, India © OUR PLACE; Himelji, Japan © OUR PLACE; Incau National Park, Argentina © A. Purney; Plahshahumukha, USA © J. Wart; Caricassonne, France © V. Fumey; Forest of the Cedars of God, Lebanon © UNESCO; A. Shibamoto; Dulon; Huanglong scenic and historic interest Area, China © T. Yevandey; Abu Simbel, Egypt © OUR PLACE; Ancient Villages of Northern Syria, Syrian Arab Republic © F. Cristofari; Beech Forests, Germany, Slovakia © GBMPA; Inside photos: from left to right: Timbuktu, Mali © UNESCO; J. Okazaki; Isosio, Botswana © OUR PLACE; Bassin du Jijel, Algeria © D. Coisson; Table, Ubushumba/Draakenberg Park, South Africa © OUR PLACE; Cesky Krumlov, Czech Republic © Czech Tourism; Community meeting in Madagascar © UNESCO; Lectrice, Monarch butterfly Bioprotective Reserve, Mexico © C. Cortina.

# 「世界遺産と持続可能な開発: 地域社会の役割」

世界遺産条約の40周年を記念するイベントに参加してみませんか?



## あなたも参加してみませんか?

世界遺産は人類の共有財産です。  
世界遺産の保存にあなたの貢献を!

寄付のお願い: <http://whc.unesco.org/en/donation/>

To learn more about the World Heritage Convention and find out about the 40th Anniversary events throughout the world and in your region, visit our website at <http://whc.unesco.org> or contact:

UNESCO World Heritage Centre  
7, Place de Fontenoy  
75352 Paris 07 France  
Tel: 33 (0)1 45 68 18 76  
Fax: 33 (0)1 45 68 55 70  
E-mail: [wh-info@unesco.org](mailto:wh-info@unesco.org)

© UNESCO 2011



# 世界遺産と持続可能な開発 地域社会の役割





1972年、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で世界遺産条約（正式名称：世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約）が採択されてから、今年で40年となります。この間、登録された世界遺産の数は936件を数えます。188カ国が締約国として参加する世界遺産条約は、自然遺産・文化遺産を保護するための国際条約として最も広く知られています。

歴史上かつてない規模でグローバル化が進化した現在の世界では、地域に根づいたグループであれ、より「バーチャル」な空間に組織されるソーシャルネットワークであれ、開発課題をみずから定め、草の根レベルで数々の取り組みを主導することで、こうしたコミュニティが社会の中でますます大きな役割を果たすようになってきました。そうした中、世界遺産の保護についてはどうでしょうか。コミュニティはそこでどのような位置を占めるのでしょうか。世界遺産条約の採択40周年にあたる2012年、この問題についての議論が、すでに多方面で始まっています。社会、経済、そして自然環境が急速に変化する中

にあって、世界遺産が「社会生活における役割」（世界遺産条約第5条）を確実に担うようにするには、どういった取り組みが必要となるのでしょうか。世界遺産に「社会生活における役割」を与えらるるとは、実際には何を意味するのでしょうか。



ツアーガイド。  
先生と生徒たち。  
観光客に手工芸品を売る女性たち。  
周辺地域のレストランやホテルに  
魚を売る漁民。  
法律や規制の施行に取り組む地元当局。  
あなた、そして私。  
個人やグループ。  
非公式な団体や組織。  
私たちこそが、  
世界遺産の真の  
守り手です。

### 課題に共に立ち向かう

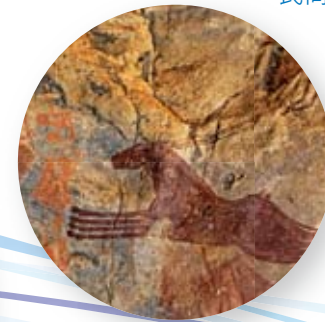
世界遺産が誕生することにより、多くの利益が生まれると同時に、周辺の住民やその地域で仕事をする人々、そして世界遺産を訪れる人々は、特別な課題に直面することにもなります。観光客の増加は期待される利益のひとつです。しかし、世界が共有する遺産である以上、あらゆる関係者の協力により、訪問者数を慎重に管理しなければならない状況も考えられます。関係者にとって「利益」と「責任」は切り離せない関係にあります。様々な形で世界遺産に関与する人々の意見に耳を傾けることはとても重要です。世界遺産条約採択40周年のテーマとして「世界遺産と持続可能な開発」が掲げられたのは、世界遺産の保護に取り組むことを決意するすべての人々が納得し、満足する関係を、地域社会の参加を通じてどのように築けるのか、築くべきなのを示すためにほかなりません。

## 2012年——世界各地で開催される記念イベント

世界遺産条約の採択40周年を記念して、2012年には数々の心躍るイベントが広く世界の5つの地域で開催されます。それは世界遺産条約の将来を考え、また、条約のメカニズムが変化する世界にどう適応し、歩調を合わせ続けていくことができるのかを考える絶好の機会です。世界遺産条約という、先見の明のある優れた条約は、これから50年目に向けた新たな10年に入りますが、その間、「持続可能な開発」と「世界遺産の保存」との重要なつながりに注目した新たなビジョンに関する声明及び戦略計画が実施に移されます。それはまた、世界遺産への推薦や、遺産の保存状況についてのモニタリング、条約を運用する諸機関の作業の効率化について、革新的取り組みが進められる10年ともなります。

世界遺産条約は、私たちが、顕著な普遍的価値を持つ自然遺産・文化遺産への理解を深め、守っていくことに大きく貢献してきました。今年一年を通じて計画されているワークショップ、会議、専門家会合、青年フォーラムなどのイベントは、いずれも、世界遺産条約が成し遂げてきた大きな進歩を私たちに思い起こさせてくれる場となります。イベントには世界中の人々が参加し、各地域における会合では次のようなトピックが議論されます。

- ・「持続可能な開発」と「世界遺産の保存」の両立
- ・民間セクターの支援と経験を世界遺産の保存に最大限生かすためには何が必要か？
- ・持続可能な地域社会の実現を目指す事業は世界遺産関連の諸計画にどう組み込めるのか？
- みなさんが議論に参加する絶好の機会です！



2012年を通じて、世界のあらゆる地域を担います。世界遺産の地元でどのように的な絆を広げて、世界遺産青年フォーラムに参加したり、また、それぞれの学校を通じて、ユネスコの「若者のための世界遺産教育プログラム」に参加するなど、世界遺産条約の将来は彼らの手に委ねられています。

の若者が記念イベントに大きな役割日常生活を営んでいくのかを学び、国際

この一年の様々な活動や地域別・テーマ別イベントから得られた結論を世界に向け発信するため、日本政府は11月、京都において40周年記念最終会合を3日間 にわたり開催する予定です。そこでは世界遺産条約の過去・現在・未来に新たな光が投げられることになるでしょう。この会合では、世界遺産管理の最もお手本となるべきケースが、初めて認定されます。

## 世界遺産条約と6つの遺産

### カンボジア王国 アンコール遺跡



東南アジアで最も重要な遺跡のひとつであるアンコール考古学公園には、クメール王朝の旧都の遺跡が堂々とした佇まいで残されています。アンコール遺跡は、長年にわたり、政治的・軍事的動乱、違法発掘、略奪、地雷により破壊され続けてきました。多くの遺跡は依然として注視を必要とする状況にあり、発展し続ける観光産業による影響も強まっています。現在では、主だったもので15件を超える大規模な保存・修復事業が進められています。遺跡が適切な管理下に置かれ、数々の保存・修復活動が成功していることを受け、2004年には「危険にさらされている世界遺産リスト」から除外されました。

### ニュージーランド トンガリロ国立公園



トンガリロ国立公園に連なる山脈は、マオリ族の人々にとって、文化的・宗教的に重要であるとともに、自然環境との精神的なつながりを象徴するものともなっています。同国立公園は1993年に「文化的景観」の第一号として世界遺産に登録されました。文化的景観が世界遺産として認められるようになったことは、人間と自然環境との密接な精神的つながりを強調する上での重要な一歩となりました。

### モザンビーク共和国 モザンビーク島



モザンビーク島にある歴史的な旧都は、何十年にも及ぶ戦争と経済の低迷により、衰退の一途をたどっていました。そうした状況を受け、日本、ポルトガル、ベルギー（フラン行政政府）、オランダの各国政府と「ポルトガル語使用都市機構」は、復興事業に資金を拠出しています。それは真の意味でのマルチドナー型修復事業で、モザンビーク島やモザンビーク国内の他の地域から集まった100人以上の専門家や学生の参加を得て、伝統的建築技術に関する研修が行われ、要塞都市の修復と公共貯水タンクの建設のために、島にある建築資材や島で受け継がれてきた装飾法が用いられました。



### エクアドル共和国 サンガイ国立公園



野生動物の密猟が盛んに行われ、家畜が違法に放牧され、敷地内で浸食が進み、道路が無計画に建設されるなど、自然環境が回復不能な状態に陥る脅威に直面し、「危険にさらされている世界遺産リスト」に記載されていたサンガイ国立公園。その後、脅威に対する強力な措置が講じられたため、2005年には「危険にさらされている世界遺産リスト」から除外されることになりました。現在では、狩猟、登山、あるいは違法な放牧が見られるのは公園内のごく一部のみとなり、また、道路建設計画は厳格な国際環境基準を満たすよう修正されています。

### イエメン共和国 シバームの旧城壁都市



16世紀に築かれたシバームの旧城壁都市は、別名「砂漠のマンハッタン」とも呼ばれますが、都市を取り囲むワジ（砂漠地方に一時的にできる川）を活用した灌漑用水の管理が行われなくなったことや、また、昔ながらの上下水道施設の過剰な使用が原因となって、壊滅の危機に直面してきました。しかし、広範囲にわたる保存作業が行われた結果、都市内部の建物の65%は修復され、ワジにおいても大規模な治水措置が講じられるようになりました。

### デンマーク王国（グリーンランド） イルリサット・アイスフィヨルド



グリーンランドの西岸中部に位置する町・イルリサットを訪れるクルーズ客の数は、過去何年もの間増え続け、それに対し適切な管理措置が講じられなかったため、アイスフィヨルドは摩損し、町は観光客でごった返し、ゴミ処理の問題を抱えるようになりました。そうした状況を受け、商業目的の狩猟、自動車、航海、娯楽活動、調査・情報活動なども含めた管理計画が、2009年から2014年を対象として定められ、この計画が公開議論の場で提示された時には、多くの市民が世界遺産をどう管理していくかに関する議論に参加しました。